

トランジション・プロジェクトに至るまで

—全国大学生調査・社会人対象の振り返り調査(先行調査)の結果概要—

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

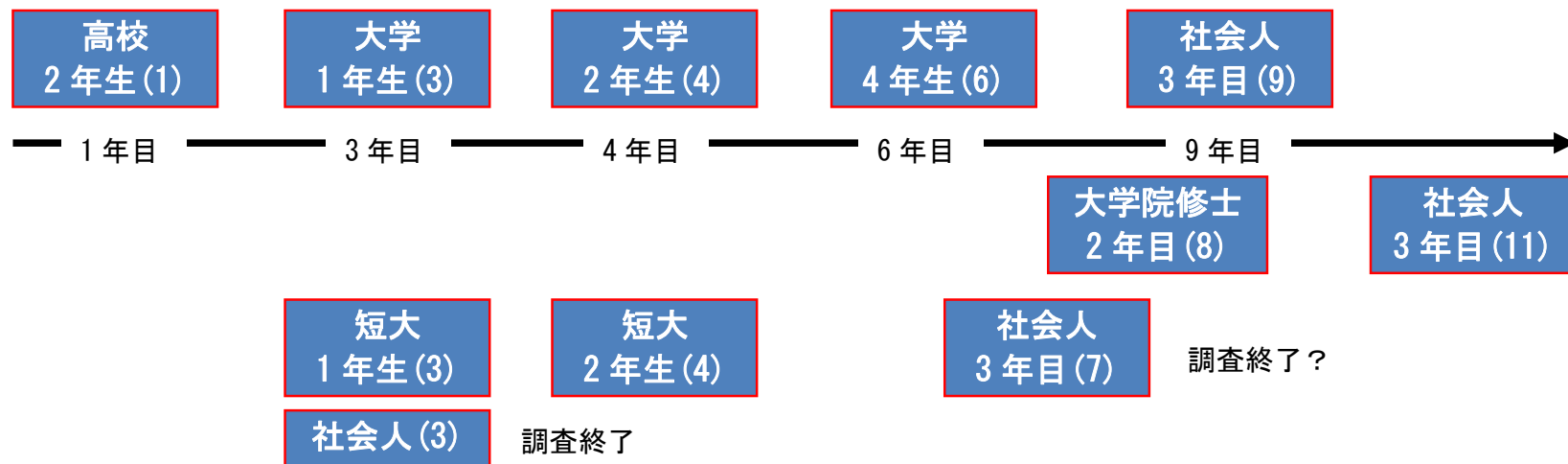
トランジション調査概要

目的:5年間にわたる大学生調査を通しての研究成果を仕事・社会への移行へ適用し、高校2年生スタートの約10年追跡パネル調査をおこなう。

対象校:大学進学率約7-8割の高校(河合塾の資料より全国1,500校を対象)を調査対象の母集団として設定し、無作為抽出をおこない、それをもとに教育委員会や学校と相談の上調査校を決定する。

対象数:全国の高校生(国公立)60,000名(調査ターゲットは17万人、回収率35%と推定)

調査実施の流れ:



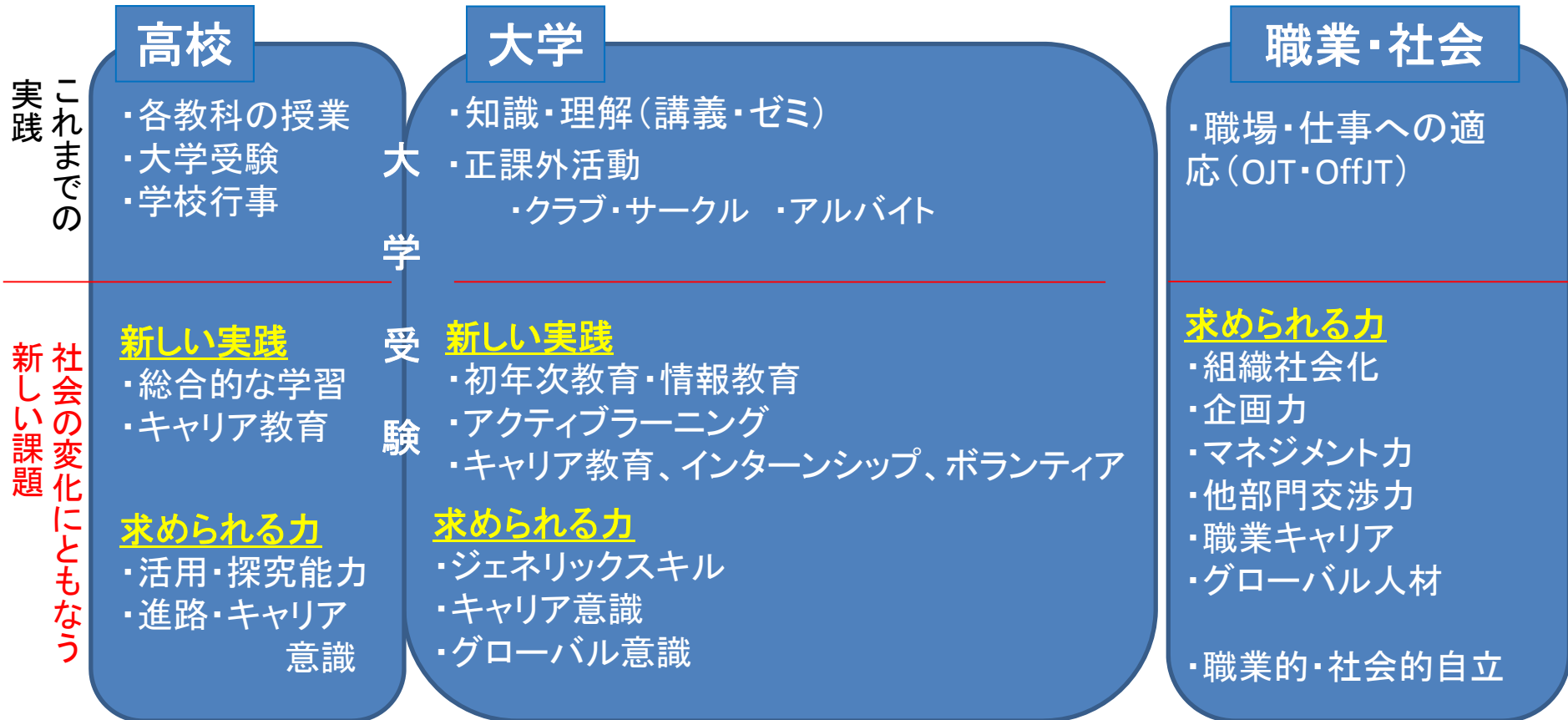
プロジェクトの背景

School-to-Work/Adult Transition

学校から職業・社会へのトランジション

学校

職業・社会



- ・「良い大学を卒業すれば良い仕事を得られる」の時代は終わった
- ・新しい時代・社会の要請に合わせた新しい学校教育の課題、新しい実践

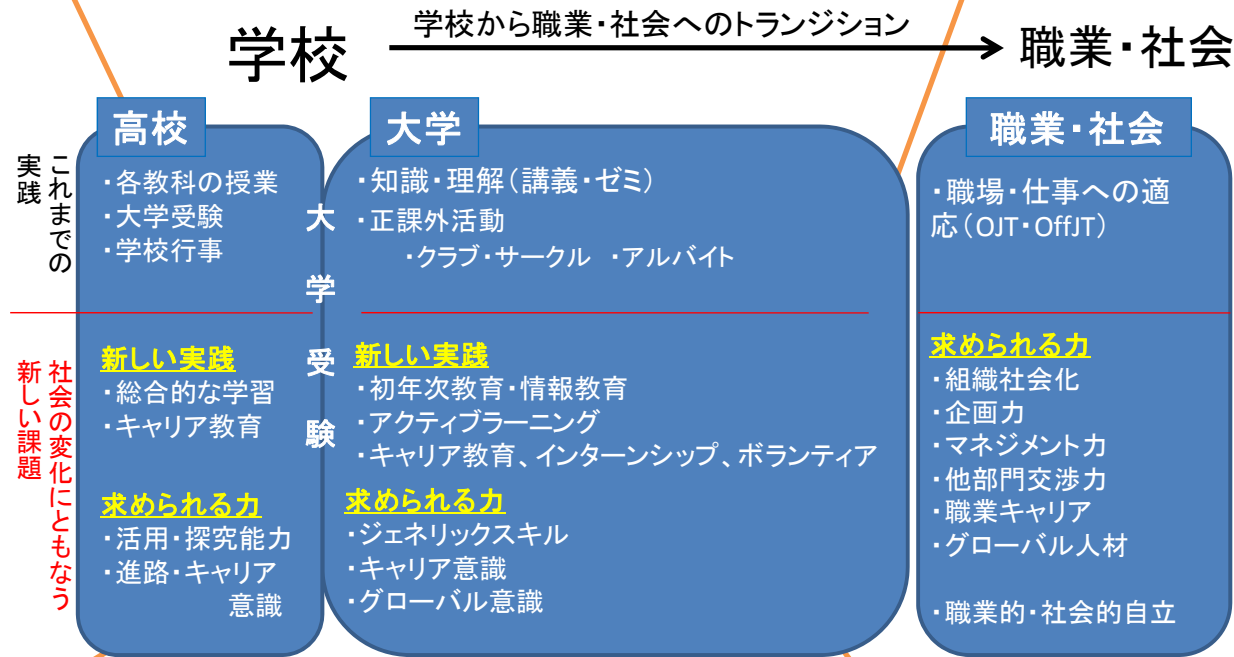
キャリア教育・職業教育の推進(2011年)

中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)』2011年1月31日

- ・社会的・職業的自立
- ・基礎的・汎用的能力の育成

大学設置基準の改正(2011年4月)

・大学における社会的・職業的自立に関する指導等(キャリアガイダンス)の実施



新・学習指導要領の改訂

(2009年改訂、2013年から実施)

- ・国語をはじめ、各教科で批評、論述、討論などの学習を充実
- ・統計(数学I)の必修化
- ・数学や理科での活用・探究学習の重視

(1) 学士課程答申 (中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて(答申)』平成20年12月24日)

(2) 大学教育質的転換答申 (中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて一生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)』平成24年8月28日)

- ・汎用的技能(ジェネリックスキルの育成)(学士力の一部)
- ・授業外学修時間の重視
- ・アクティブラーニングの推進

これまでの成果

(1) 京都大学高等教育研究開発推進センター・公益財団法人電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査』

- ・3年おきに全国約2,000～2,500人の国公立私立大学生を対象に調査し、日本の大学生の一般的な学習・大学生活の状況を把握。
- ・2007年、**2010年実施**。次回は2013年11月実施予定

詳しくは <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

(2) 京都大学高等教育研究開発推進センター・東京大学大学総合教育研究センター・公益財団法人電通育英会主催『学校から仕事へのトランジション調査』

- ・2012年4月に
 - ・会社規模 (1) 30-499名 (2) 500名以上
 - ・年齢 (1) 25-29歳 (2) 30-34歳 (3) 35-39歳
- の2条件(2×3)を設定、各条件500名ずつ、計3000名の調査協力者(会社員)を対象に、学校経験や職場での働き方などに関して調査。
- ・プレスリリースは3/28を予定。

補足データ

(3) 大阪府立大学データ(1年生から3年生へのパネルデータ)

(n=609/1,612名)

*同志社大学・大阪府立大学・北海道大学・甲南大学『国公立4大学IRネットワーク』(平成21年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム)の一環で収集されたデータである。

* IR (Institutional Research: 機関調査)

* 溝上の大阪府立大学への関わり:

学長補佐(2011-2012)、高等教育開発センターIR顧問(2013~)



大学IRコンソーシアム(2012年設立)
現在、全国の国公立13大学が加盟
<http://www.irnw.jp/>

結論1

大学生調査から見えてきた 学生を成長させる活動変数は何か？

(1) 教室外学習

Keywords: 主体的な学び、アクティブラーニング

Related: 学士課程答申・大学教育質的転換答申

(2) キャリア意識（社会的・職業的自立：キャリア教育・職業教育）

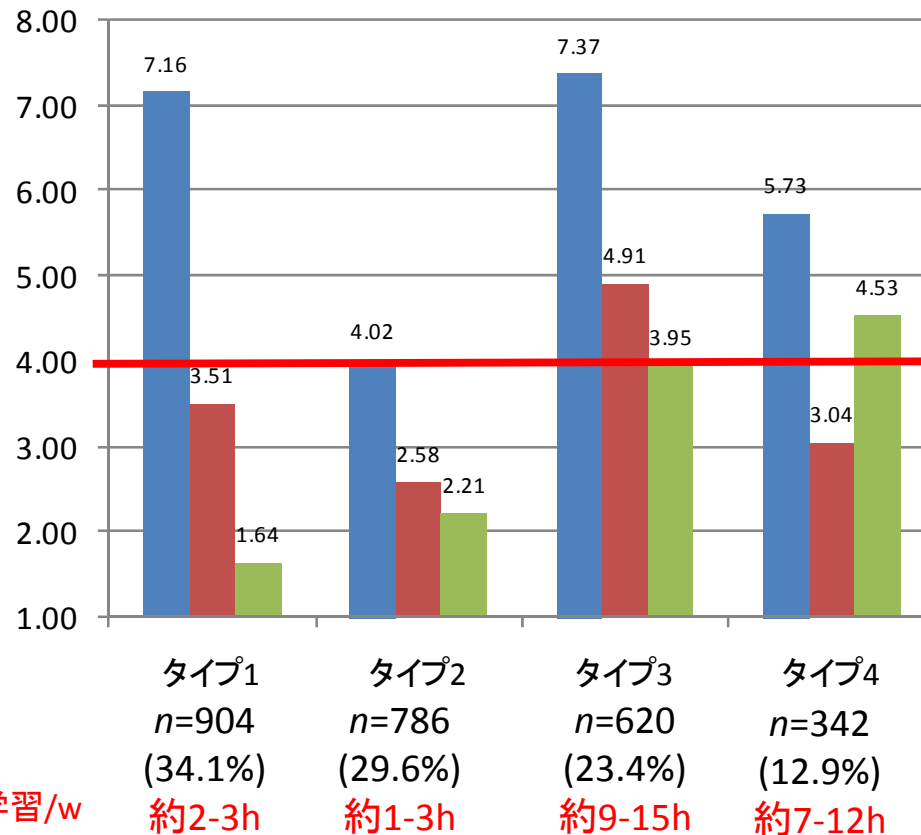
Keywords: キャリア形成、キャリアと学業との架橋

Related: キャリア教育の答申、キャリアガイダンス

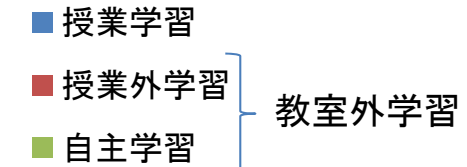
(3) 課外活動・対人関係

Related: 学生支援関連の施策、学生支援と正課教育との架橋

⇒質問項目は【補足資料】参照



クラスター分析



- (1)全然ない (2)1時間未満
 (3)1-2時間 (4)3-5時間
 (5)6-10時間 (6)11-15時間
 (7)16-20時間 (8)21時間以上

63.7%の学生(タイプ1+タイプ2)は教室外学習がほとんどなし

Data Source:

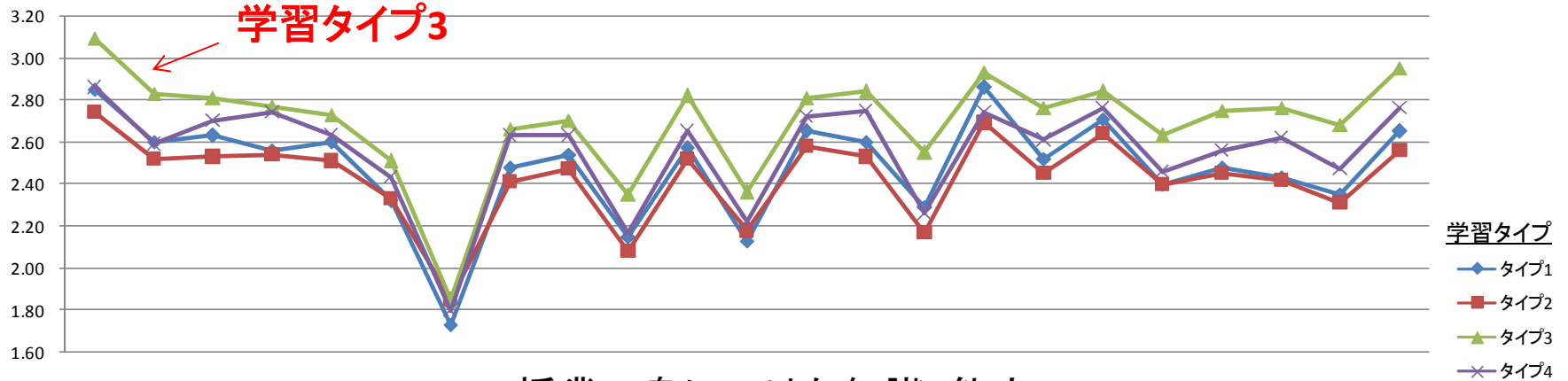
主催: 京都大学高等教育研究開発推進センター・公益財団法人電通育英会

方法: マクロミルによるインターネットリサーチ。

回答者: 全国の国公立大学生2,652名(1年生1,328人、3年生1,324人)

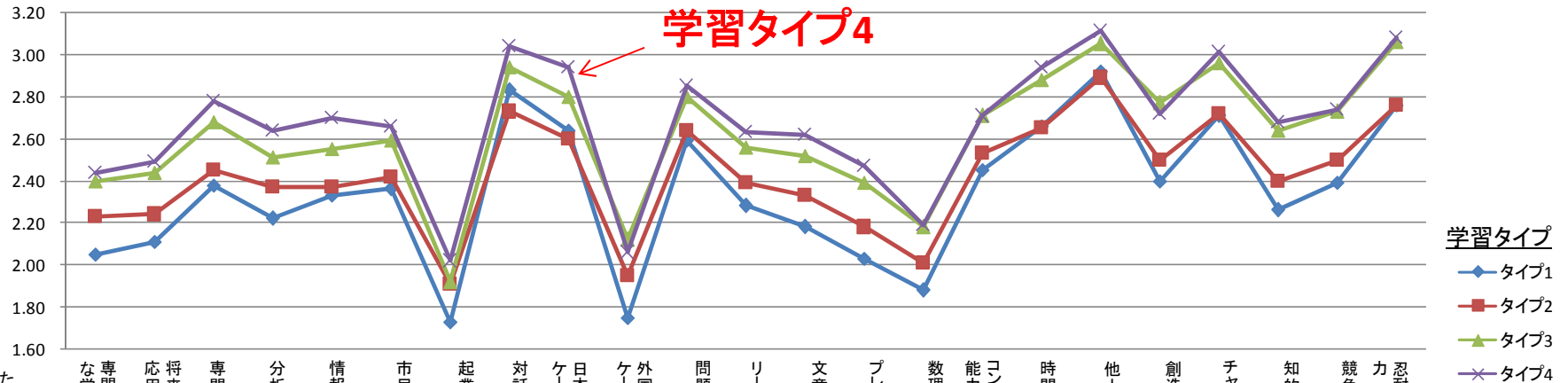
調査時期: 2010年11月に実施。 詳細は <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

(4) かなり身についた



a. 授業で身につけた知識・能力

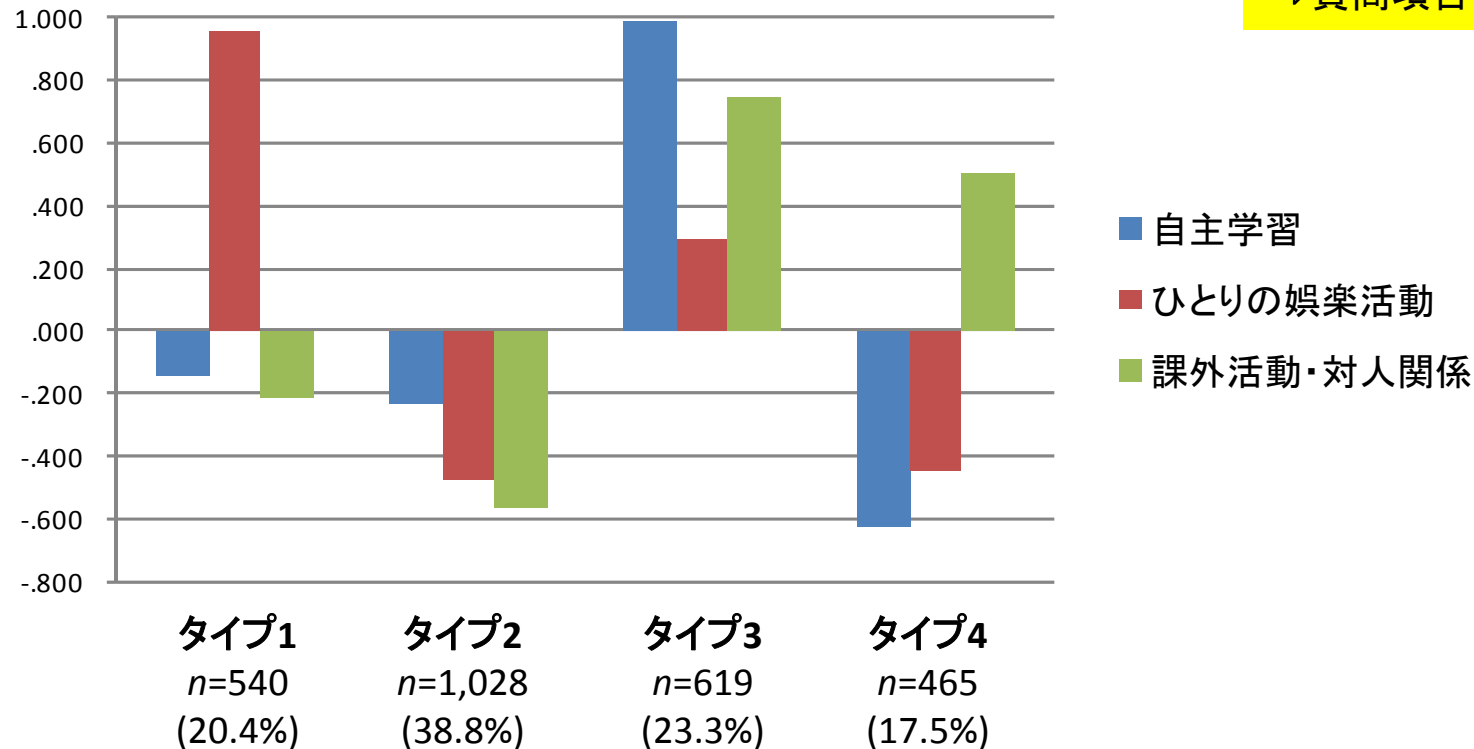
(4) かなり身についた



b. 授業外で身につけた知識・能力

(1) まったく身につかなかった

⇒質問項目は【補足資料】参照



59.2%の学生(タイプ1+タイプ2)は課外活動・対人関係が弱い

Data Source:

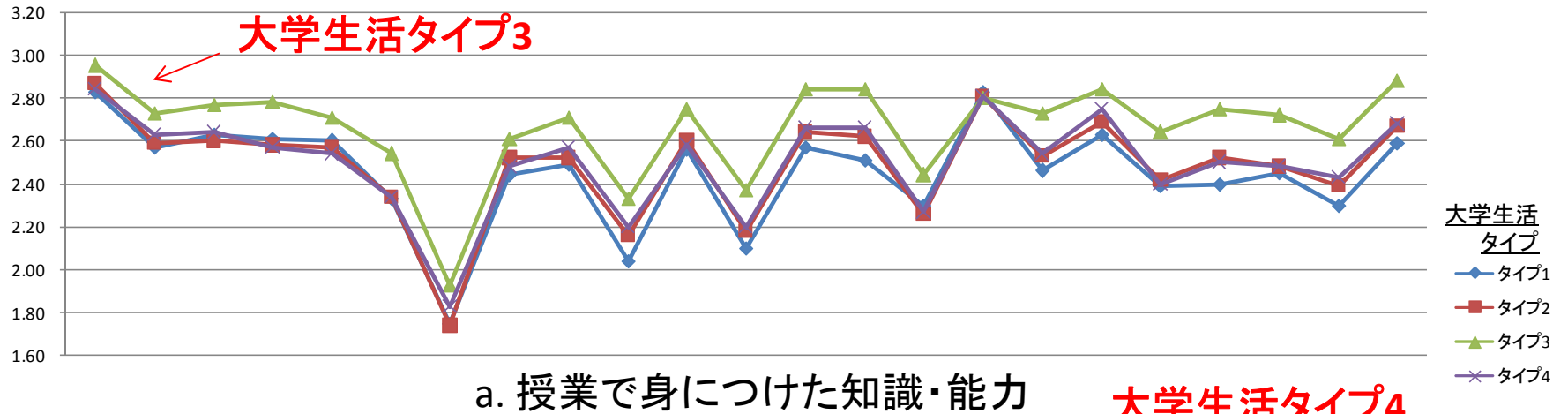
主催: 京都大学高等教育研究開発推進センター・公益財団法人電通育英会

方法: マクロミルによるインターネットリサーチ。

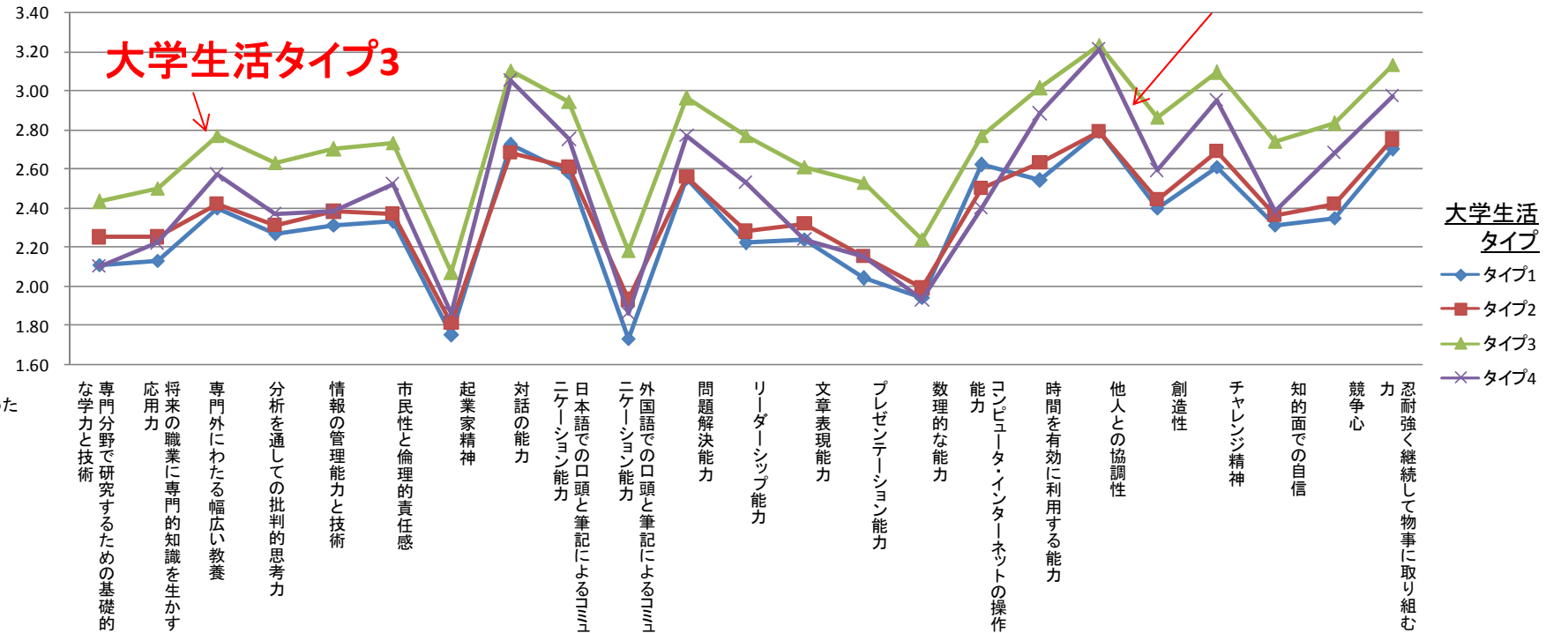
回答者: 全国の国公立大学生2,652名(1年生1,328人、3年生1,324人)

調査時期: 2010年11月に実施。 詳細は <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

(4) かなり身についた



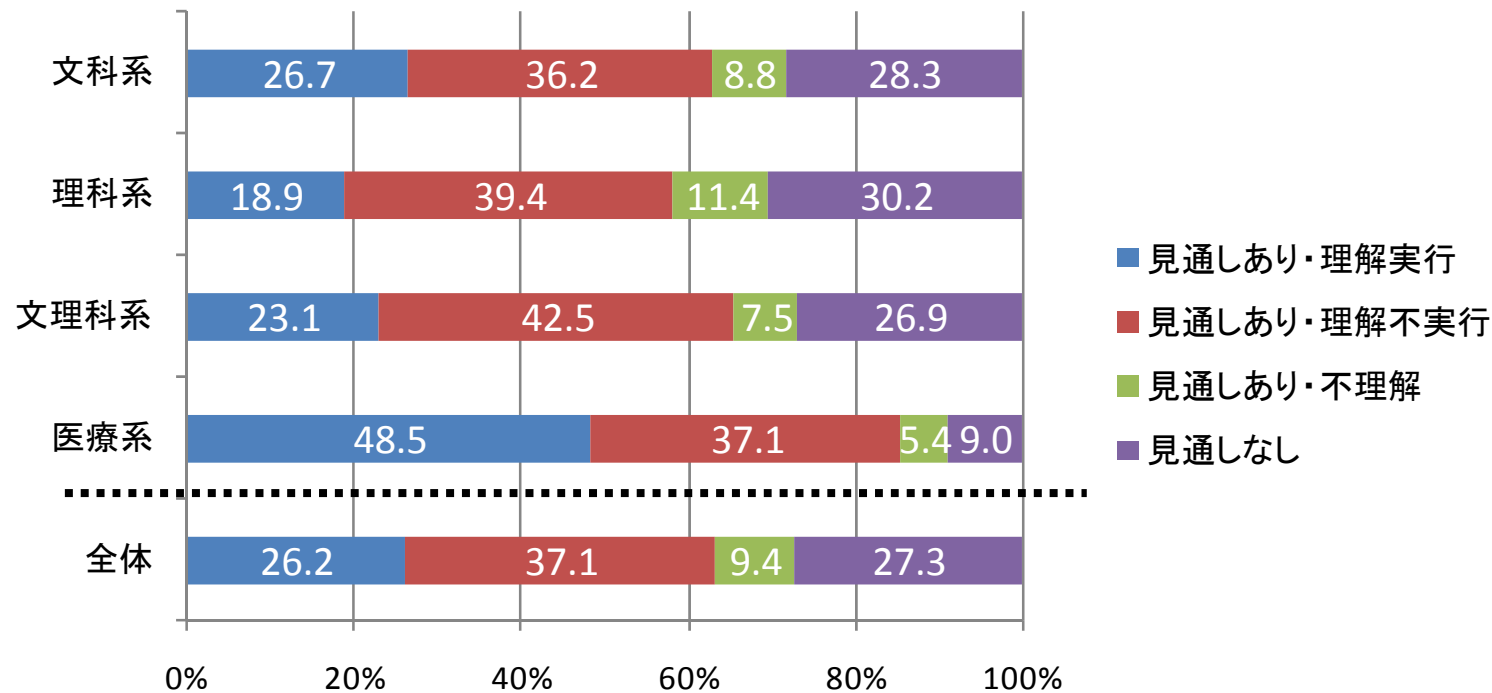
(4) かなり身についた



(1) まったく身につかなかった

⇒質問項目は【補足資料】参照

二つのライフ(将来の見通しと理解実行)

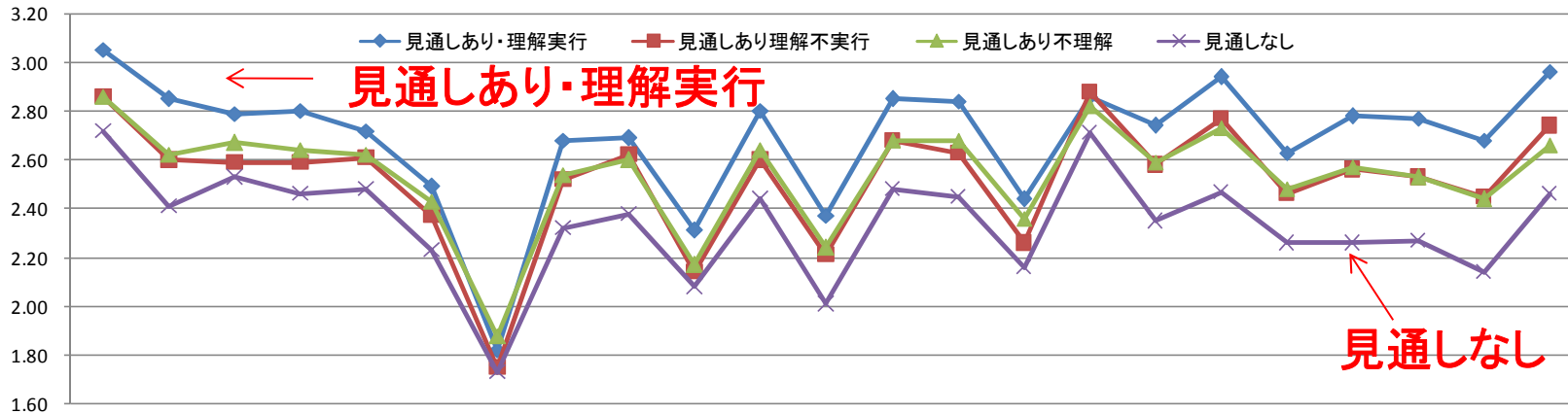


大半の学生は将来と日常が接続していない

Data Source:

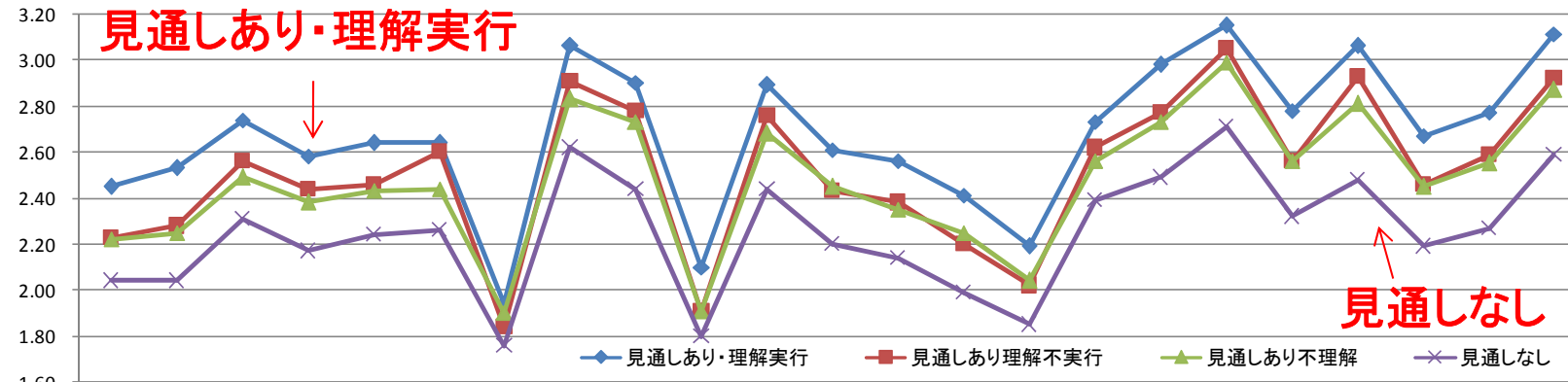
京都大学高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会共催『大学生のキャリア意識調査2007』より。全国の国公立大学生2,013名(1年生988人、3年生1,025人)。
詳しくは<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>を参照

(4) かなり身についた



a. 授業で身につけた知識・能力

(4) かなり身についた



(1) まったく身につかなかった

- 忍耐力強く継続して物事に取り組む力
- 競争心
- 知的面での自信
- チャレンジ精神
- 創造性
- 他人との協調性
- 時間を有効に利用する能力
- コンピュータ・インターネットの操作能力
- 数理的な能力
- プレゼンテーション能力
- 文章表現能力
- リーダーシップ能力
- 問題解決能力
- 外国語での口頭と筆記によるomnilingualコミュニケーション能力
- 日本語での口頭と筆記によるomnilingualコミュニケーション能力
- 対話の能力
- 起業家精神
- 市民性と倫理的責任感
- 情報の管理能力と技術
- 分析を通しての批判的思考力
- 専門外にわたる幅広い教養
- 将来の職業に専門的知識を生かす応用力
- 専門分野で研究するための基礎的な学力と技術

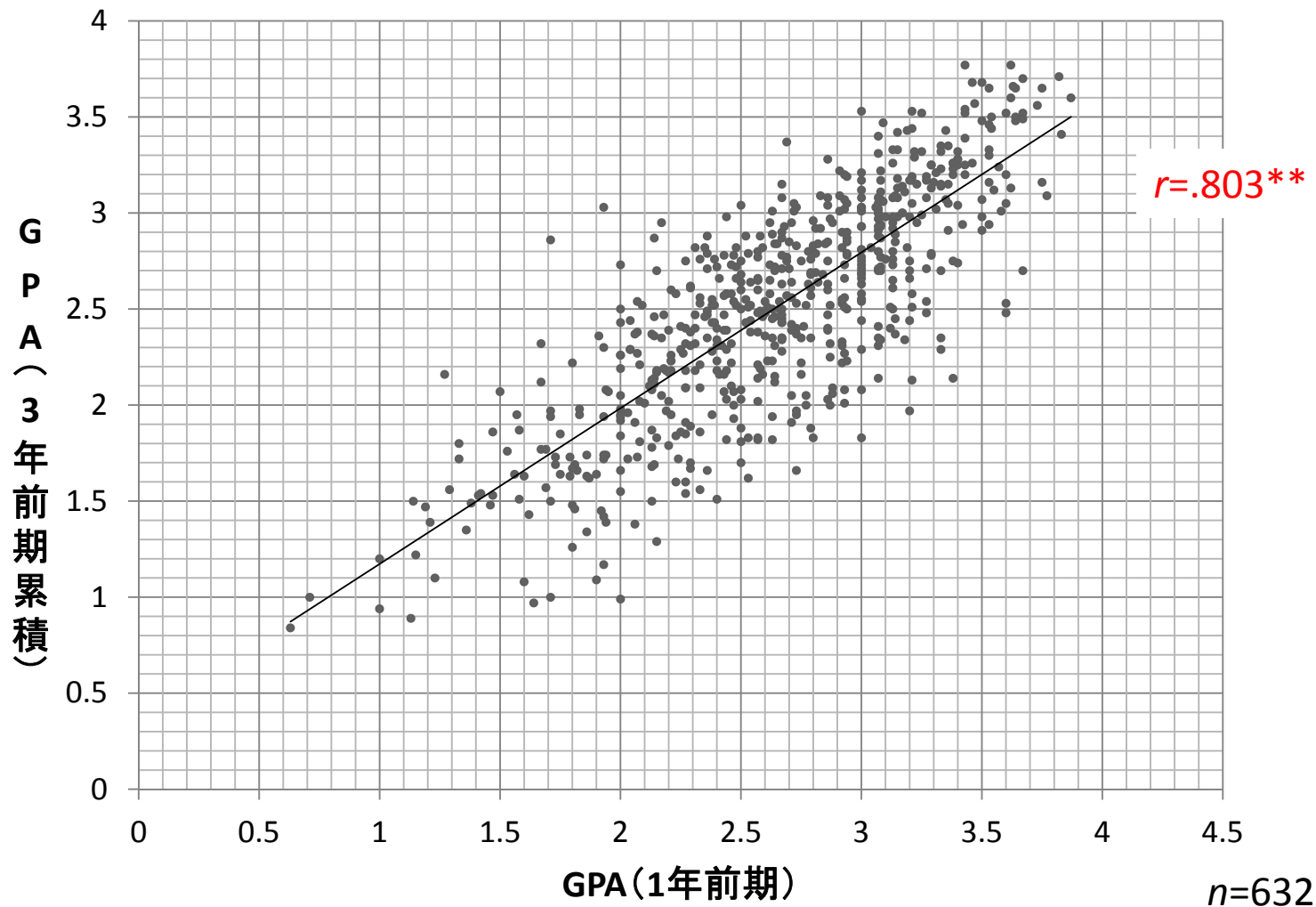
b. 授業外で身につけた知識・能力

GPA (成績) は1年生から3年生にかけてほとんど変わらない

2

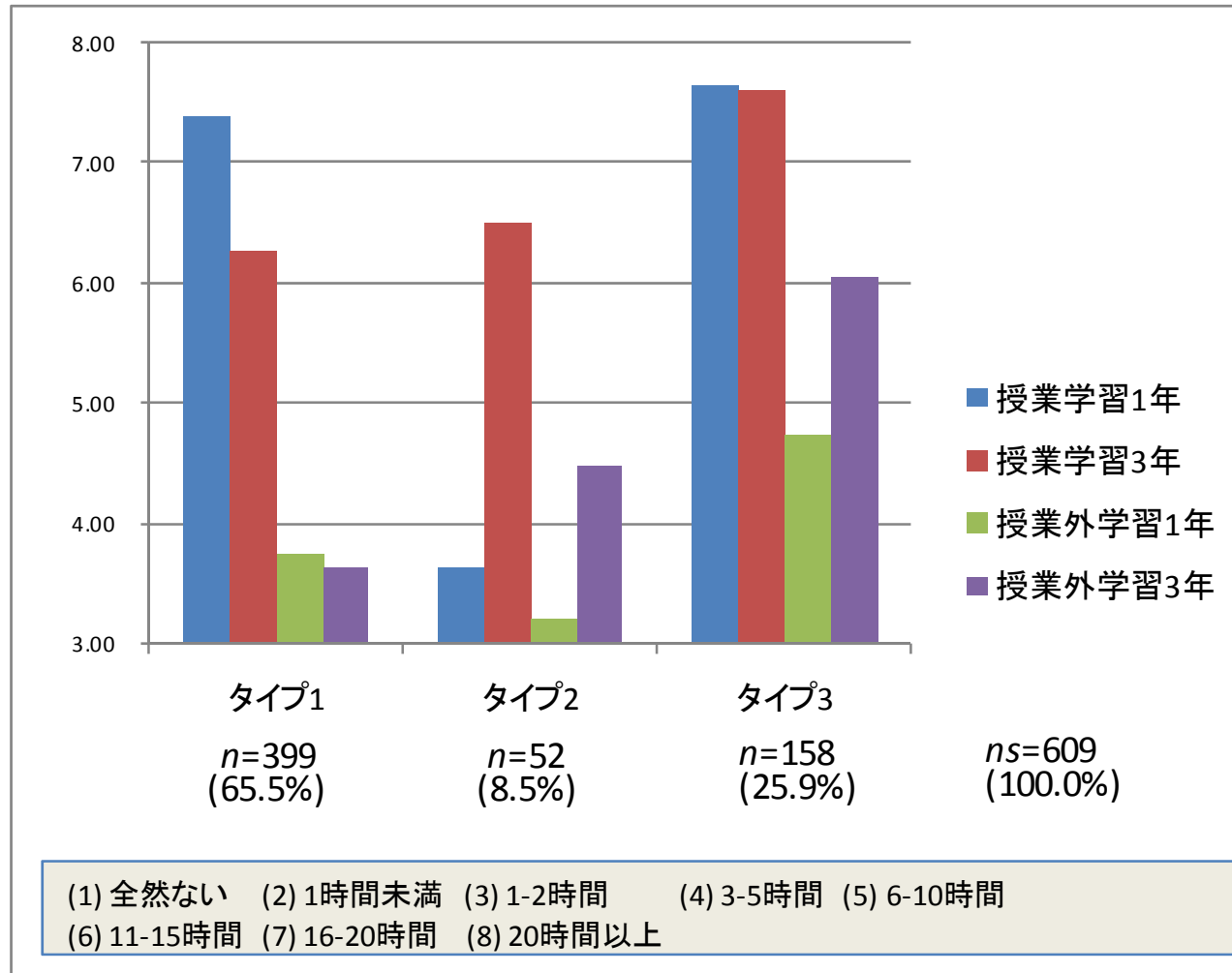
Slide14

GPA(1年前期) × GPA(3年前期累積)



Data Source:

大阪府立大学データ(1年生から3年生へのパネルデータ)

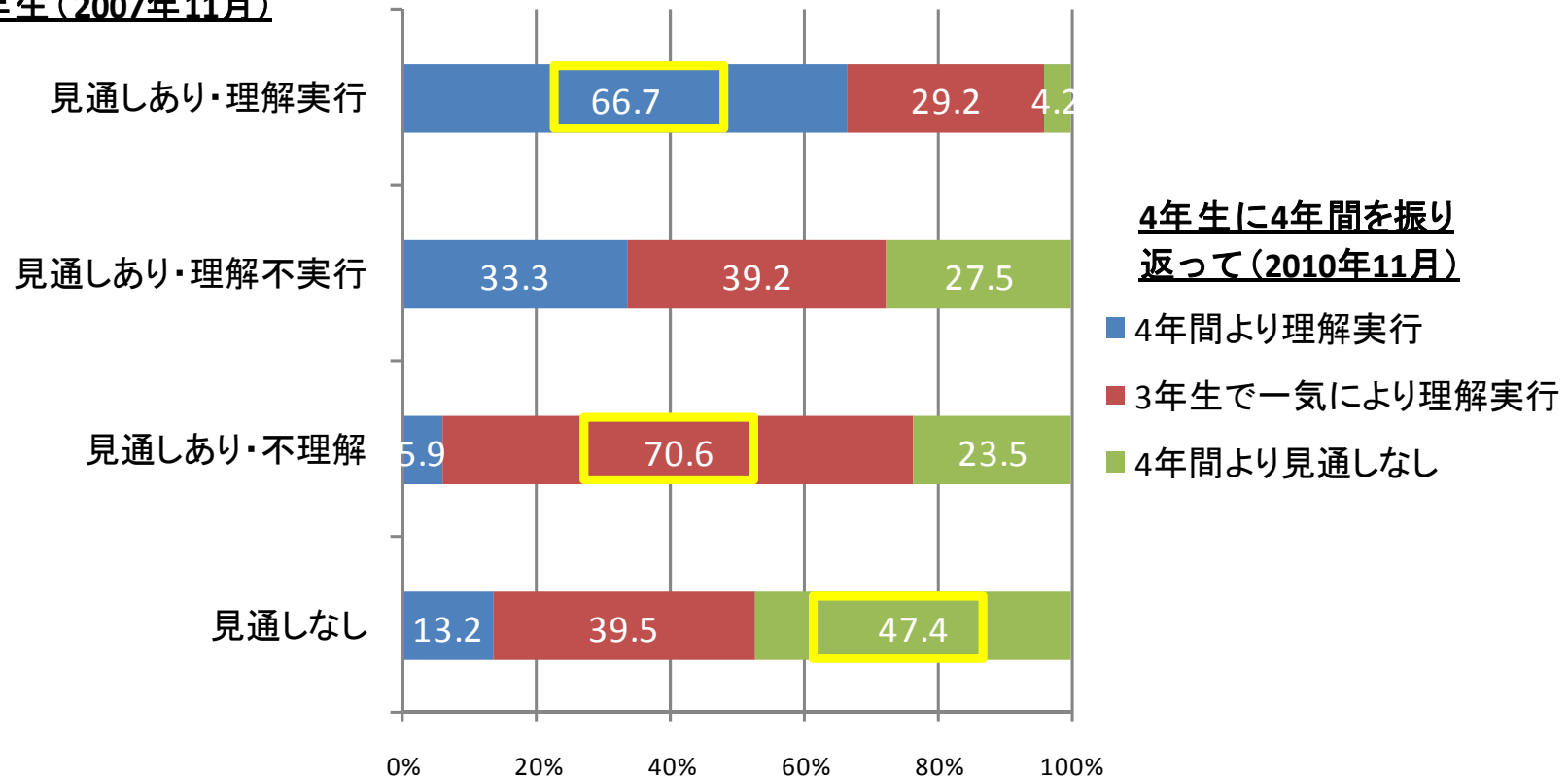


階層クラスター分析(Ward法)を用いて、デンドログラムより解釈可能な3タイプを抽出

公表できるのは大阪府立大学データですが、4大学(同志社大学、大阪府立大学、北海道大学、甲南大学)で分析してもほぼ同じ結果です。4大学データでは変化群は7.4%

Data Source:

大阪府立大学データ(1年生から3年生へのパネルデータ)

1年生(2007年11月)**Data Source:**

京都大学高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2007追跡(2010年版)』。2007年988名→2010年130名。分析では医療系を除外している。

詳しくは<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/> を参照

結論2

大学生調査から見えてきた 学生を成長させる活動変数は仕事につながるか？

(1) 教室外学習

Yes

(2) キャリア意識 (社会的・職業的自立: キャリア教育・職業教育)

Yes

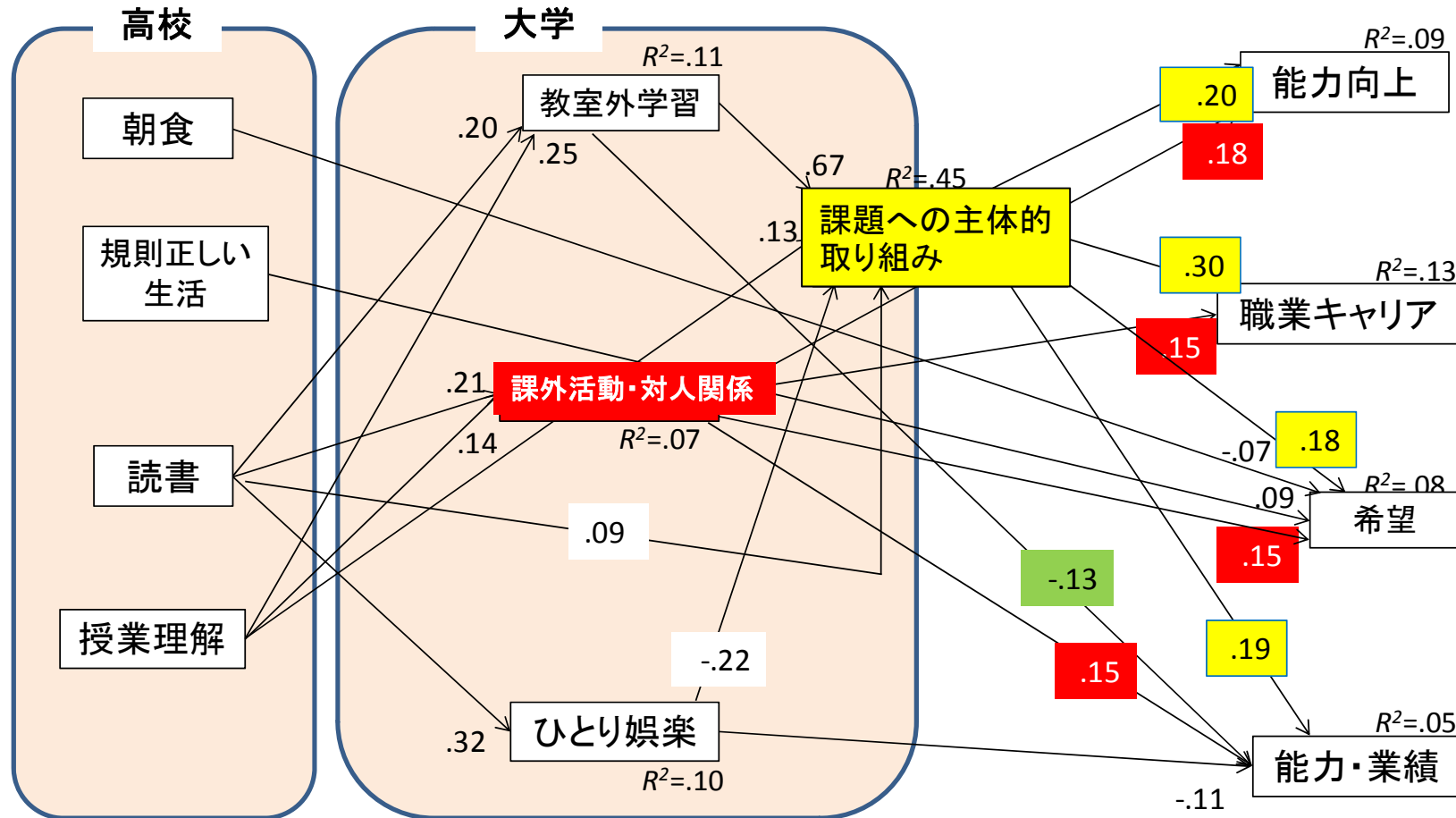
(3) 課外活動・対人関係

Yes

学校(高校・大学)から職業へのトランジション構造

パス解析及び多母集団同時分析:

Slide18



学校 → 仕事

POINT

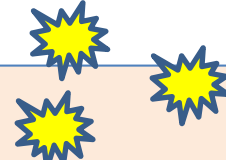
- ・「課題への主体的取り組み(主体的に学ぶ力)」「課外活動・対人関係」が仕事のパフォーマンス、能力・業績に大きな影響を及ぼしている。
- ・将来の見通しタイプ8よりもタイプ1でこの構造はよりクリアーに見られる(キャリア意識)。

課題

各種大学生調査、社会人の振り返り調査から明らかになった結果

- ・教室外学習
 - ・キャリア意識
 - ・課外活動・対人関係
 - ・これらの要因は大学4年間のあいだで変わりにくい
- 学生学びと成長に関する大学教育改革への示唆
- 高大接続、大学教育改革への示唆

は、果たして高校2年生からの10年間パネル調査で検証されるか？

京都大学 × 河合塾 

『学校から職業・社会へのトランジション・プロジェクト』
2013年(高校2年生)からの10年間追跡パネル調査

補足資料

学習時間の調査項目

Q. 一週間の生活を振り返って、あなたは次の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。1週間の平均的な時間数として最も近いものを1つずつお知らせください。

1. 大学で授業や実験に参加する
2. 授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする
3. 授業とは関係のない勉強を自主的にする
4. 同性の友達と交際する
5. 異性の友達と交際する
6. クラブ・サークル活動をする
7. コンパや懇親会などに参加する
8. 家庭教師や塾の講師のアルバイトをする
9. 家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする
10. テレビをみている
11. インターネットサーフィンをする
12. ゲーム(ゲーム機・コンピュータゲーム・オンラインゲーム)をする
13. 勉強のための本(新書や専門書など)を読む
14. 娯楽のための本(小説・一般書など、マンガや雑誌を除く)を読む
15. マンガや雑誌を読む
16. 新聞を読む
17. 通学にかかる時間

授業学習
授業外学習
自主学习

- (1)全然ない (2)1時間未満 (3)1-2時間
(4)3-5時間 (5)6-10時間 (6)11-15時間
(7)16-20時間 (8)21時間以上

二つのライフの調査項目

Q1 あなたは、自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っていますか。

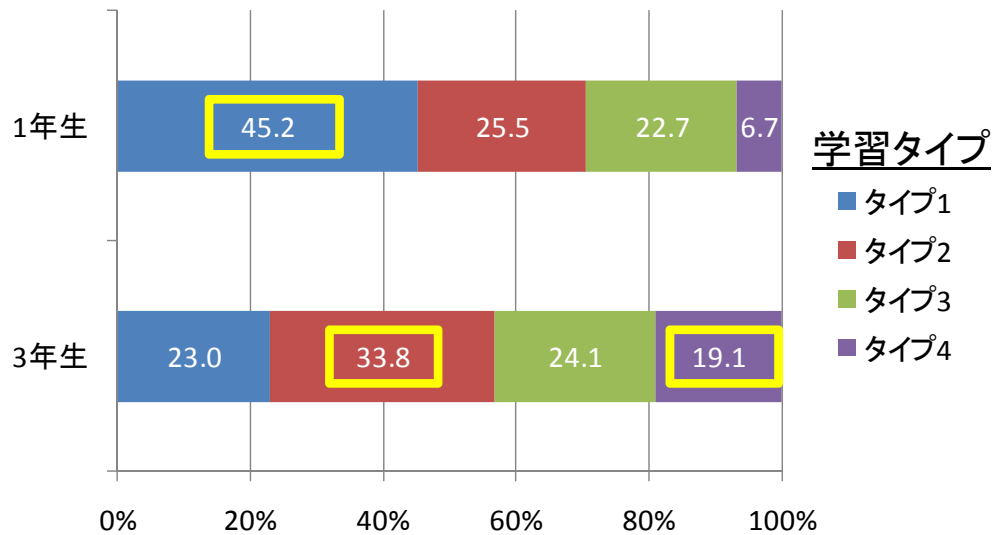
- (1) 持っている (2) 持っていない

Q2 (「1」に回答した方のみ)

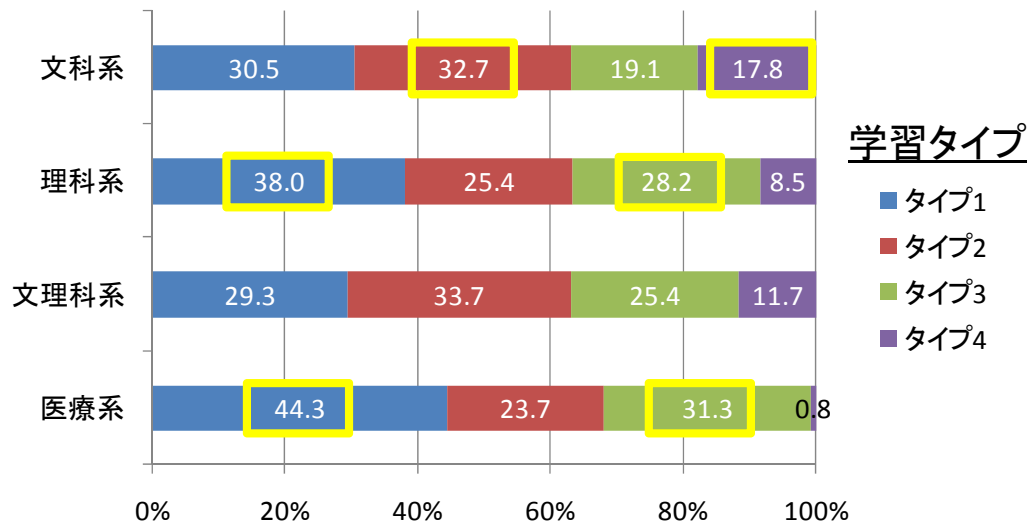
あなたは、その見通しの実現に向かって、今自分が何をすべきなのか分かっていますか。またそれを実行していますか。最もあてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 何をすべきか分かっているし、実行もしている
(2) 何をすべきかは分かっているが、実行はできていない
(3) 何をすべきかはまだ分からない

学年別・専門分野別に見た「学習タイプ」

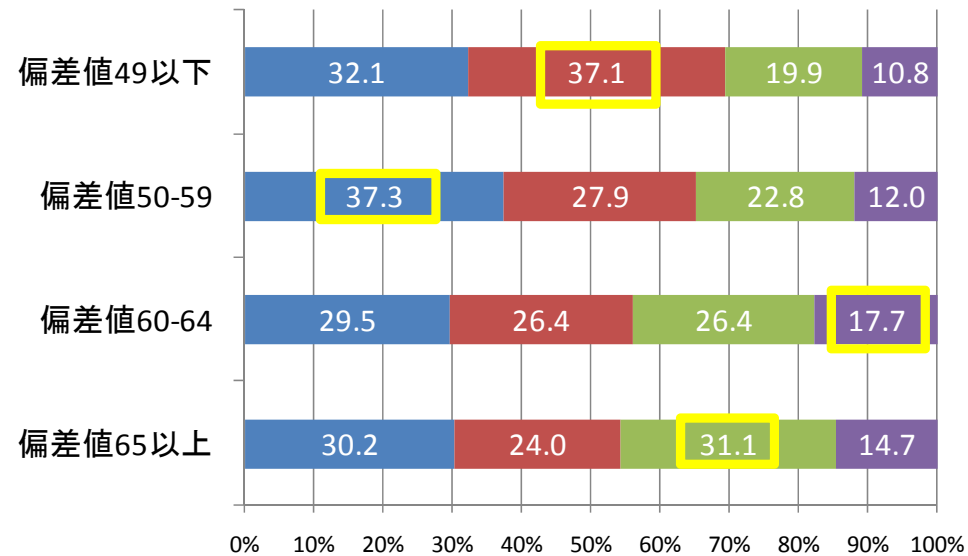


1年生は授業中心、3年生でタイプ2(勉強しない)、タイプ4(自主学習中心)が増える



課せられる理科系・医療系、自分でやるしかない文科系

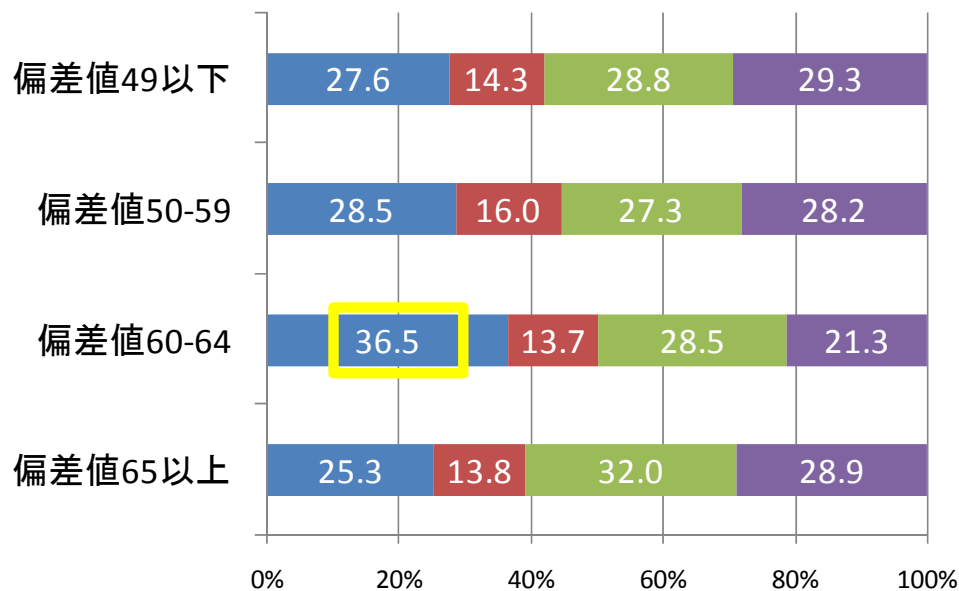
偏差値別に見た「学習タイプ」「二つのライフ」



偏差値が下がるにつれて、
学習タイプ3・4は減少

学習タイプ

- タイプ1
- タイプ2
- タイプ3
- タイプ4

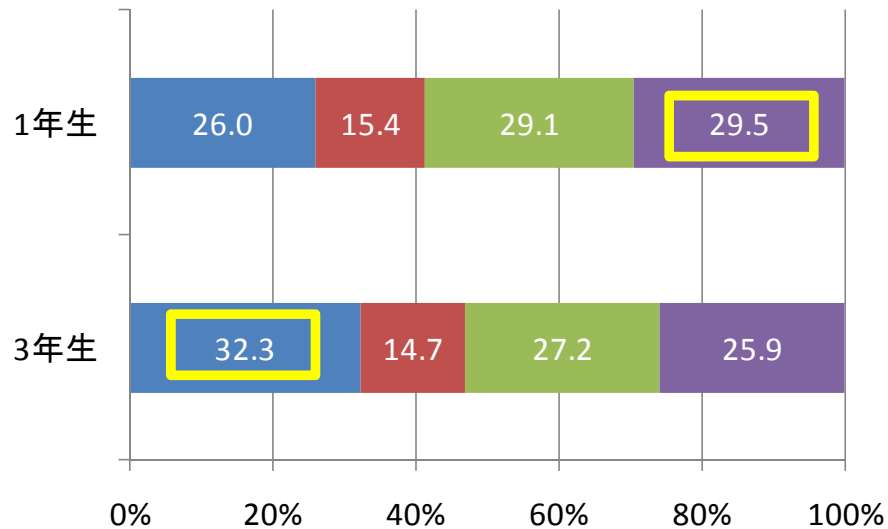


偏差値60-64で「見
通しあり・理解実
行」群が多い

2つのライフ

- 見通しあり・理解実行
- 見通しあり・理解不実行
- 見通しあり・不理解
- 見通しなし

学年別・専門分野に見た「二つのライフ」

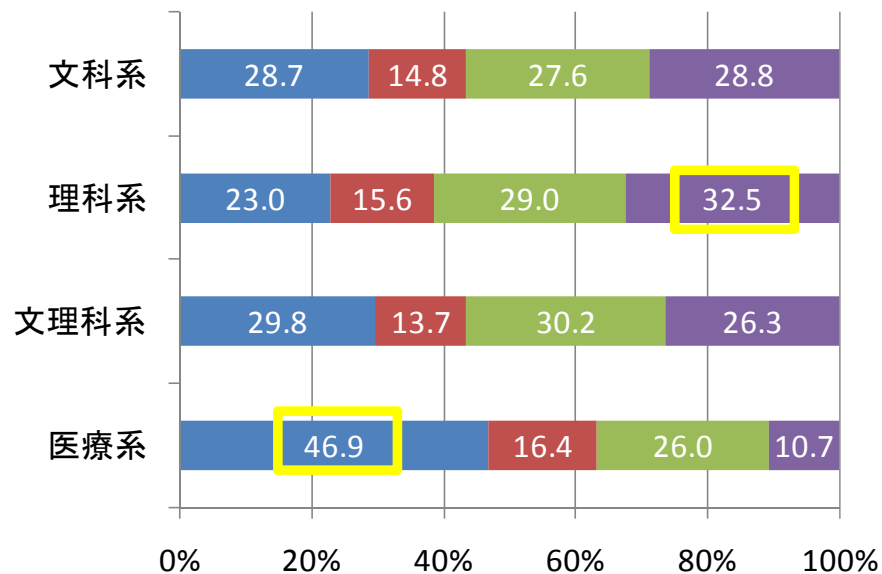


2つのライフ

- 見通しあり・理解実行
- 見通しあり・理解不実行
- 見通しあり・不理解
- 見通しなし

学年の有意差は見られるものの、さほど大きな学年差はない

(*) χ^2 検定の結果、1%水準で有意差あり($\chi^2(3)=13.180, p<.01$)



2つのライフ

- 見通しあり・理解実行
- 見通しあり・理解不実行
- 見通しあり・不理解
- 見通しなし

医療系に「理解実行」多く、理科系に「見通しなし」多い

(*) χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意差あり($\chi^2(9)=74.558, p<.001$)